

従来艇 および 旧型foil の 大会使用制限について



新型の
← ラダー
ダガー →



1. 2013年1月1日以降の新艇登録では、新型foilのみが登録できます。
新規登録ハルと旧型foilを組合せての登録はできません。(登録済艇の名義変更は可能)
2. 2013年以降の全日本オプティミスト級セーリング選手権大会では、IOD95艇 及び 新型foilのみが使用できます。 従来艇、旧型foilは、使用できません。
3. 2015年以降の東西選手権では、IOD95艇 及び 新型foilのみが使用できます。 従来艇、旧型foilは、使用できません。

解 説

foilとは： センター（ダガー）ボードと ラダー の意味です。

従来艇と IOD95 のちがい： OP は初期には木造艇として考えられたために、同じ規格を FRP 艇も使用していました。そのため ワンデザインと言いながら建造各社で特色を 規格の範囲内で打ち出すことが可能でしたが、1995年に木造艇と FRP 艇の規格を分けて、FRP 艇はレーザークラスのような厳しい製造の制限を設けました。IOD95の名前の由来は「**I**ODA **O**ne **D**esign **1995**」=国際 OP 協会の 1995年デザイン艇 から来ています。したがって現行クラスルール下のレースでは IOD95 が正式であり、レース委員会の都合により旧クラスルールを認めて出場を許す場合もありますが、グレードの高い大会では現行クラスルール通りで大会を行うことが求められます。

旧型と新型のfoil： 1995年にハルだけは真のワンデザインとなりましたが、foil、スパーセールはバリエーションがそのまま認められていました。しかし9年後の2004年にfoilがワンデザイン化しました。主な理由は3つ、①ラダーの後退角が大きいほどスカリング効果がある。②後退角が大きすぎると強風では普通のスキルのセーラーに

1965
IODA 設立

1970
木
造
艇

1975

1980

1985
↑
従
来
艇
↓

1990

1995 IOD95 艇 制定

2000

2004 新型フォイル 制定

2005

2007 ← 選考会で新型フォイル

2010

2013 ← 2013年 現在
全日本は これ以降 新型フォイル/IOD95 のみ

2015 ← 東・西日本は これ以降 新型フォイル/IOD95 のみ

としては操舵が重くなり難しくなる。③少しでも抵抗の少ないフォイルとは究極的には特殊な手作り (hand made) で価格がラダー1枚6万円 (IODA 記事) となり、OPの基本理念である「低コストの競技」と相反する。制定後は世界選手権を始めとして各国のナショナル選手権で公式フォイルとして使用されました。特に④の問題が公正なレース実施の観点から重視されています。我が国では「低コスト」レースの主旨から、2007年以降の選考会から新型フォイルを義務づけた以外にはこれまで旧型フォイル使用も認めてきましたが、左図のように、猶予期間を設けて装備の転換を図りたいと思います。

大会のグレードとは？： クラスルールを厳密に守ることはもちろん大切ですが、一方で選手が参加しやすいことも考慮しなければ 大会によっては 参加数が減る可能性もあります。また計測を全く行わない大会もあります。このような大会計測の格差はレース委員会の独立というシステムでフォローされています。

クラス協会は継続的にクラス規則の推進を図りますが、一方 その大会のレース委員会は、その大会 のみに責任を持ち、運営するという建前です。

したがって、たとえ OP 協会主催であっても、レース委員会は独立しており、例えば公式計測員はクラスの委員ですが、レース委員会が任命しない限り大会計測を行ってはいならないことになっています。また、何か計測上で問題があったとしても、大会が終われば後にその問題を引きずらない、その大会限りで終結することになっています。

しかし、主要な大会であまりに低い計測レベルでは、せっかく苦労して計測証明書などで艇をクラスルール通り維持・管理しても意味が薄くなります。ISAF ではオリンピックを頂点として7つのグレードでおおよその区分をしています。JSAF でも 全日本ではジャッジの編成や計測などに基準を設けて指導しています。このように、多くの人達がスポーツを楽しむための 厳密さと参加しやすさが「大会グレード」となっています。

全日本と東・西日本 以外の大会はどうなるの？：

以上で説明した通り 本来は現行のクラスルールで行うべきですが、その大会の目的 (グレード) により加減することもあり、それぞれのレース委員会が従来艇および旧型フォイルの使用の可否について決定します。

旧型と新型のフォイルの見分け方

新型フォイル

2004 年以降 **モールド番号と年式**
 (右写真) がラミネートの下に
 書いてある。



旧型フォイル

下の写真は 2000 年当時の各種フォイルのカタログ。記入は**シリアル番号とメーカー名**のみ。
 コメントには「少し 又は すごく角度 (のぼり角度? のことなのか意味不明) が違う。」と書いてある？。

<p>C3+パーツ C2+C3=C1</p>	<p>C1 HK Set C2+C3=C1 ヘンク センター・ラダー・ティラー ラダーフィッティング、ストッパーセット E1・E6・E3をセット。 ラダーの型は従来からの品物です。 ヘンク ¥88,000 → ¥52,800 (組立工資別途)</p>	<p>C5 EX1100 オプティパーツ ラダーブレード E1・E6・E3をセットした場合は ¥5,000増。 ¥13,800 → ¥11,000</p>	<p>C12 HK Set NEW ヘンク ラダーセンターセット C2・C11・E1・E6・E3セット ¥88,000 → ¥54,800 (組立工資別途)</p>
<p>C4 OX70C OPTIMAX ラダー Control フォームサンドイッチFRP製 少し角度が違います。 ¥45,000 → ¥25,800</p>	<p>C2 HK-C ヘンク センター ¥49,800 → ¥32,300</p> <p>C3 HK-R ヘンク ラダーのみフィッティングパーツ無し。 E1・E6・E3をセットした場合は¥5,000増。 ¥31,800 → ¥20,600</p>	<p>C6 EX1110 オプティパーツ センターボード ¥21,000 → ¥17,000</p>	
<p>C7 EX1115 オプティパーツ ラダーセンター Set 金具付 C5・C6・E1・E6・E3 5点セット ¥39,800 → ¥29,800</p>	<p>C8 EX1097 E&Vセンターボード エポキシコーティング 仕上り最高、各国で人気爆発! ¥44,000 → ¥35,000</p>	<p>C9 EX1096 E&Vラダーセット エポキシコーティング、 カーボンティラー+ アルミエクステンション付 E1+E6付 仕上り最高、各国の上位選手が船 のメーカーにかかわらずこのラダー を選んで使っています。 使い方が違います。 少し角度が違います。 ¥44,000 → ¥38,000</p>	
<p>C10 EX1099 E&Vセンターラダーセット C8・C9・E1・E6のセット ¥88,000 → ¥62,800</p>	<p>C11 HK-R NEW NEW ヘンクラダー E1・E6・E3のセット NEWタイプ・すごく角度が違います。 ¥33,800 → ¥27,600</p>	<p>C13 ウイナー センターラダーセット 時 価</p>	

新型foil

- foilの厚さは14mm以上15mm以下

最低厚さを4mm増大したことにより、沈起こしの時に重い選手が無理して体重をかけた時に折れるケースを防ぐねらいがあったが、ノールのダガーボードスロット（ダガーを差し込む隙間）は16mm +/- 2となっているために、最大厚さが1mm増えたので艇と新型ダガーの相性によっては、抜き差しが困難になることもある。（誤差が最大のダガーは15mmに対して誤差が最小のスロットは16mm - 2 = 14mm）しかしルールの計測は通ることになる。

2004年に新型foil規則が改定された以降のIOD95ノールは、この点を考慮されている。

- 製造年とモールド番号とシリアル番号とメーカー名をスターボ側に記さねばならない。

- 表面仕上げは、ゲルコートのみ = 透明であること。

- シリアル番号、年式、モールド番号（M-1 など）メーカー名をゲルコートコーティングの下にプリントしてなければならない。

- メーカー名（ロゴ）は広告規定に従い記入してもよい。

旧型foil

- foilの厚さは10mm以上14mm以下

- シリアル番号を割り当てなければならない。

- 表面仕上げは、ゲルコート/塗装 = 種類および色を問わない。

- シリアル番号は表面にプリントまたはシールの貼り付け。（このためこすれたり剥がれたりして読めなくなると再計測が必要）

- メーカー名（ロゴ）は広告規定に従い記入してもよい。

まとめ

時代の要求と共にクラスルールは変わっていきます。レースシーンでは常に現行ルールの装備の使用でありたいものです。しかし、従来艇・旧型foilはこれで不用になったのでしょうか？いいえ、まだまだたくさんの活躍の場があります。それは新しいジュニアを育てるための練習艇には価格が安くて最適なのです。（クラス規則で規制されるのは大会中だけです。）

2700番より前のセールナンバーの艇でも、保管と整備をきちんと行えば今後も十分に使えます。レースと普及の2つの目的がオプティミストクラスの使命なので、この2種類（新型・旧型）を使い分けて大切に守ることで次世代への贈り物としましょう。